

「八ヶ岳森の掃除人ヤスデの調査」体験報告

長野市茶臼山動物園

岸田麻美子

1) 調査体験での気づき

ひとつの個体群内のキシヤヤスデが八年の周期で皆同じ齢であるという生態がとても不思議で興味をひかれました。なぜそうなのか、いつから繰り返されているのか、そして、周期がずれることもあるのか、あるとすればそのきっかけは何か、と謎は尽きず、ワクワクする体験でした。生息調査では、キシヤヤスデのいる土壌にはなぜか他のヤスデや動物が少なく感じられました。

これらの生態では、何かしらの要因で一斉になくなる危険があり、またそうなったときは土壌環境に大きな影響を与えます。これらの謎を解き明かし、土の中でどんなことが起きているのかを知るためにも地道な生息調査の必要性を感じました。



2) 調査内容からの企画 【2015年10月17-18日 秋の動物園まつり「学び舎ブース」にて】

- a キシヤヤスデ調査体験報告のポスター展示とキシヤヤスデの生体展示。
- b ブース内に園内採集の腐葉土を用意し、「探してみよう！落ち葉の下の動物たち」と題して来園者に土壌動物を採集してもらい、虫眼鏡や携帯顕微鏡で見る体験型の展示。
- c ツルグレン法等にて事前採集した土壌動物の展示。



3) 企画の体験者の反応・感想

採集コーナーでは、小学生以下の参加者が多く宝探し感覚で夢中になって探す姿が多々みられました。ミミズを素手で手掴みして喜ぶ女の子に、親御さんが負の感覚ではなく驚いていたり、このような自然体験をもっと子供にさせたいがどうしたら良いのかという相談を受けたり、体験型土壌動物の展示はとても反応が良かったと思います。

また、キシヤステについては大人の方からの質問が多く、松本方面では今年集団発生しているという情報までいただき、来園者の方との交流ができました。

4) 企画をしてみたの感想

様々な年代、目的を持つ来園者が集まる動物園という場所柄、まず楽しく参加できることを考えなくてはならない為、あまり深いところまで掘り下げた展示にはならなかったと思います。

動物園は珍しい動物の展示だけでなく、身近な土の中にもおもしろい動物がたくさんいて、それをおもしろいと思う価値観を育む場所だと思います。実際にやってみると、一般の来園者の中には関心の高い「分子たち」が実はたくさんいらっしゃって、動物園はそういった方々と専門家・研究者を繋げる役割もあると感じます。企画では来園者への直接の語りかけがとても重要ですので、研究者の方にもご参加いただける機会をつくりたいと思いました。

5) 体験を語ることについての学びの影響

自分が体験したことがどれだけワクワクしたか、謎を感じたか、おもしろかったか…を伝えることがまず重要と考えての企画なので、その先もう一步踏み込んだ「環境教育」とするには、足りない内容でした。ただ、土いじりに夢中になる子どもたちとそれを見守る親御さんの姿は印象的でした。

今回は自分の足の下の世界にふれるきっかけで、今後、そこから何を考え、選択し、行動するかを考えることができるような展示が課題と思います。

|